

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	〒028-3185 岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川第8地割1-1		
自己評価作成日	令和6年1月10日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑(施設)は、春には新緑、夏には蝉しぐれ、秋には錦秋の紅葉など存分に体感できる葛丸川溪流沿いにあり、四季の移り変わりが実感できます。利用者様には、散歩の際、行き交う地域の方々と挨拶を交わし交流しながら、ゆったりとした日々を過ごして頂いております。また、家庭的な雰囲気の中で利用者様が生活しやすい環境を整え、少人数の中で「なじみの関係」をつくり上げております。利用者様の有する能力に応じた生活においては、衣・食・住全般に生活者としての役割のある生活ができるよう支援しております。そして、利用者様、ご家族様、地域社会との絆を大切に生活を提供しております。災害時の避難訓練にも力を入れ、安心、安全な支援に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

奥州市で高齢者福祉事業所を複数運営する社会福祉法人が運営する事業所である。石鳥谷バイパスから花北青雲高校の前を西進し、県道13号線を超えたのどかな田園風景が広がる葛丸川沿いに開設され、敷地内には同法人が運営するケアハウスも設置されている。定員9人の小規模な事業所のメリットを活かして家庭的な生活を目指し、コロナ禍においても地域の一員として地域の自治会活動に参加して地域との交流を図り、地域に溶け込み見守られる事業所として運営する方針を貫いている。外出が制限された時期においても、公用車を活用して季節の花見や紅葉狩りなどのミニドライブを多く取り入れたり、クマやイノシシが頻回に目撃されるようになって、クマよけの鈴を持ち少しでも外の空気を吸えるよう散歩を行うなど、事業所の中に籠る生活とならない利用者本位の生活の実現に、職員が一丸となって取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年2月16日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『笑顔でゆったり憩う家』の理念を掲げ、掲示し、利用者様と関り、支援していくなかで、職員間で基本理念に立ち戻り、再確認、共有し継続していくことで統一したケア、支援に繋げていけるように日々努めている。	「笑顔でゆったり憩う家」との基本理念の下で、利用者の自己決定を尊重しながら、認め合い、支え合い、助け合う家庭的な環境にも似た温かい相互関係作りを目指し、職員一丸となってその実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大時期ではあったが、地域住民や職員が橋渡しとなって、できるだけ地域の行事に参加するよう努めている。今年度は、大瀬川地区子供会の環境整備(花壇の草取り)、地区文化祭への展示参加、見学等を継続していく事で地域の方々との交流も深まり、地域行事参加への誘いも増えている。	コロナ禍にあっても、地域自治会のメンバーとして、地区文化祭への作品展示参加や子供会と合同の花壇作業など、地域との関係が途切れないように努めている。地域の集会や行事もコロナ禍前に戻りつつあり、お誘いの声を受けられる機会も多くなってきている。また、コロナ禍前は、北上市、花巻市、盛岡市などの複数のボランティア団体との交流も多かったが、現在は中止しているため感染症の動向を見ながら再開を検討することとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大瀬川地区行事、子供会の環境整備に積極的に地域に出向くことで、顔の見える関係性ができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の全体的な状況や、活動報告、地区等の行事参加など取り組みについて報告している。行事参加の際は、地域の方々に『見て、知って、理解して頂く』機会となり、ご意見やご協力を頂くことでサービスの向上に繋げている。	委員として地区活性化会議会長、民生児童委員、老人クラブ会長、地域包括支援センター管理者、法人理事、入居者代表、家族代表が参加している。コロナ禍で文書による開催が続いてきたが、令和5年7月から対面での開催に戻している。出席者からは、運営に関する質問や地域行事への誘いなど、地域との関りを深める意見交換の場になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、市社協の方々に事業所の実情を積極的に伝え、連携を図っている。また、新型コロナウイルスやインフルエンザの感染状況、市内の高齢者施設の状況など意見を頂いたり、情報提供を頂いている。	ケアマネジャーが窓口となり市の長寿社会課と支障なく連絡を取り合える関係が構築され、制度の運用や感染症に関することなど、幅広く相談、協議ができる関係にある。また、市内の各地域包括支援センターとの人的繋がりを活かし、入居希望者の紹介等も円滑に行われている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に『身体拘束をしない宣言』を掲示している。身体拘束となる行為等、定期的な身体拘束適正化委員会の開催と施設内外の研修を通して理解を深めながら、各利用者様のケアの振り返りや見直しを行う等、職員間で活発な意見交換を行い支援の質の向上に努めている。	身体拘束指針を職員に周知し、3か月に1回のペースで、当該日の出勤職員による身体拘束適正化委員会を開催し、その結果を職員会議の場で共有している。研修会も年間職員研修計画に盛り込み年2回開催している。スピーチロックについては、ストレートな表現とならないように言葉を変えたり言い回しを変えるなどして、職員間で確認し合いながら実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化委員会・研修・会議を通して虐待について学び、理解を深め、支援を実施していく上で身体拘束にあたる行為について確認し合い検討し、支援内容を工夫している。転倒の危険性がある方でも、申し送りを充実させ、情報を共有することで、拘束しないケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度、権利擁護等について学び深める機会を持つ事ができ、電話相談時等に内容を説明し、専門機関を紹介するなど対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にご本人、ご家族様に説明した後、疑問点やお尋ねしたいことをお聞きし納得した上で契約となっている。改定時等も説明し納得された上で実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、『日々の暮らしの中から』と春秋の2回、アンケート調査を実施している。今年度はご家族様にもアンケート調査を実施した。また、利用料支払い時や計画書の説明時を利用して意向・意見を伺い、出された意見を運営に反映されるよう努めている。さらに、推進会議に参加(利用者・家族)して頂くことで、意見を頂ける機会となっている。	毎月の利用料請求書の送付に併せ、事業所での生活が分かるよう、外出時などの写真と生活の様子をお知らせするお便りをお届けしている。事業所として家族アンケートを年2回実施し、事業所や職員の対応に対する印象等の把握に努めている。大半の家族は、毎月の利用料を持参しているため、その機会に家族の思いを確認するようにしている。利用者の意向は、「私の姿と気持ちシート」を作成し、興味・関心チェックシートを用いてその確認に努めている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、朝のミーティング、人事考課時の面接等を通して、業務が円滑に遂行できるように各職員より意見や思いを吸い上げ改善に努めている。また、法人主体で職員アンケートも実施されている。	職員会議やミーティング時に、利用者支援の現状や提案を出し合い、日常の支援の見直しに繋がっている。人事考課面接を年2回実施し、その場を活用して職員個々の思いの把握に努めている。また、法人としての職員提案制度もあり、法人としての取り組みも行われている。	職員全員で事業計画の進捗状況の確認を行う場を設け、次年度の事業計画に反映させることを期待します。また、法人が実施している職員提案制度の結果について、遅滞なく現場に周知する仕組みの構築と運用を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度もあり、職員が向上心を持って働けるよう意見を聞き、助言したり改善にも努めている。働きやすい環境になるように処遇面にも配慮されており、また、希望勤務変更、希望休にも柔軟に答えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのケアの方法と力量を把握し、職員各人に目を配り、適正に合った研修に参加を促し、キャリア形成・キャリアアップについての啓発を継続的に行っている。また、施設内研修を通して振り返りを行い、できることからひとつずつ実践に繋げている。また、オンライン研修にも参加している。年に2回、OJT研修も行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染対策を行い、同業者との意見交換、勉強会等が少しずつ可能となっている。また、電話やメール等を通して相談もできており、相互作用がうまれている。日頃から施設及び職員のネットワークづくりと「顔の見える関係づくり」の大切さを日常的に説いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談(アセスメント)、カンファレンス等で心身の状態を把握し、ご本人様の希望については、「私の姿と気持ちシート」「興味関心チェックシート」等を活用し、把握に努めている。入所後もコミュニケーションを図りながら、できるだけ希望や要望に応えられるよう努めている。		

事業所名 : グループホーム千鳥苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	前項同様に、ご家族様等が困っていること等を伺い、職員間で情報を共有し、共に生活していきながら施設ではどのような支援ができるか、ご家族様と話し合いの上、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、ご本人様の思いやご家族様の考え、意見、要望を伺い、インフォーマルなサービス利用も含めたケアにも心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場をリビング(ホール)とし、皆が揃って会話する中で昔のことを聞いたり、「何か、お手伝いすることはありますか」と尋ねてくる利用者様もいる。利用者様の思いを大切に、感謝しながら信頼関係の構築にも努めている。また、利用者様の残存機能を活かしながら、利用者様と寄り添う姿勢を大切に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス感染予防の観点から、一時的な面会制限も実施したが、職員はご本人様とご家族様との架け橋となり、家庭への電話連絡等による報告・相談を密にし、意見を頂き、協力のもと『共に支える』を念頭に連携を図っている。施設内外の行事では写真を撮り、家族に郵送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の観点から人の往来に制限がある中、電話でのやり取りによる関係継続に努めている。	入居前に加入していたサークルの仲間が訪ねて来る利用者もいる。家族、知人からの電話は、子機を活用し直接利用者とお話できるようにしている。レコードジャケットや歌手の顔、歌の情景にふさわしいイラストなどをカラーで入れた事業所オリジナルの「昭和の歌」の歌集を手作りし、レクの歌の時間に有効活用している。利用者からは、歌が流行っていた当時の話や思い出が語られ、穏やかな時間を過ごす一助となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様に目配り、気配りして下さる方、話が弾む間柄、「私、あの人の傍らに座りたい」の訴え等に配慮しながら席への配慮、利用者間の自由な行き来等、職員は利用者様がお互い良好な関係が保てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、困り事や悩みが生じた際は、いつでも連絡を下さるよう伝えている。また、他の施設に移行された場合は、施設の相談員や介護支援専門員等との情報共有や相談の支援に対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とゆっくり話し合える夜勤、入浴、余暇時間等のゆったりとした時間帯を利用し、思いや意向の把握に努めており、年2回のアンケート調査や七夕の短冊や絵馬への願い事等から、利用者様の思いや意向の変化についての把握にも努めている。意思表示が困難な時は、ご家族様から今までの暮らしを聞きながら把握に努め、共有している。	傾聴、受容、目配り、気配りの実践に加え、利用者アンケートの回答からも利用者の思いの把握に努めている。うまく気持ちを伝えられない利用者には、表情や行動から判断したり、二者択一の方法で選択してもらおう方法をとっている。入浴時間は、職員と個別にゆったりと会話できる時間でもあり、利用者の思いを把握する有意義なひと時となっている。利用者が経験してきた野菜作りなどを日課として行い、これまで暮らしてきた農家の一員としての生活の再現にも取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前記録、フェースシート、私の姿と気持ちシート等、また、ご本人様やご家族様、前介護支援専門員からも聞き取りもするが、把握できなかったことについては、日々の生活の中での談話を利用している。また、ご家族様等が支払いのため来苑した時には、幅広く情報を得るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング、引継ぎ、生活日誌の記録、支援経過の記録等を通して心身の状態把握に努めている。			

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様とご家族様にケアの説明をした上で、要望、意向を伺い、ケアプランに役立てている。また、ミーティングで協議し、看護師や介護職員間で出された意見や気づきも、計画作成や作成の見直しにも取り入れている。遠方のご家族様には、電話や手紙で要望を聞いて、利用者様からサインを頂いている。その後、ご家族様にも写しを郵送している。	新規の入居希望者については、ケアマネジャーと介護職員が家庭訪問して調査を行い、関係機関からの情報も得て入居日までに暫定の計画を作成している。入居日には時間をかけた面接で確認し支援目標を定めている。その後、日常の支援の中で職員間で確認されたことを記録に残し、職員参加のカンファレンスとモニタリングを行った上で、ケアマネジャーが本人、家族、主治医の意見を必要に応じて盛り込んだ計画を作成し、会議で共有している。短期目標は6か月、長期目標は1年での見直しとしている。利用者の状況に変化があった場合は、その都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の日々の生活の様子を生活日誌、連絡ノートに記録し、さらに、申し送りで情報共有し、ケアの実践に活かしている。状況に応じてサービス内容の追加、変更など計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院はご家族様対応ではあるが、都合がつかない時には、職員が通院支援を行っている。薬局との連携を強化しているため、薬の待ち時間の削減、ご家族様負担の軽減になっている。一部お金を預かり日常生活用品の購入や支払代行もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大瀬川地区の行事として、子供会の花壇整備、文化祭への展示参加・見学、敬老会、新春のつどい等の参加等を通して地域の方々と触れ合い、活動を共にすることで施設では味わえない情緒豊かな支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続されている方や当施設に通院支援を依頼する方もおり、入所時にご本人様、ご家族様の同意を得て通院先を決めている。通院時には、日々のバイタル記録表と特変事項等を記録し、医師に報告することで適切な医療指示が受けられている。ご家族様が都合が悪い時や遠方のため通院できない理由の場合、職員が通院同行し受診している。受診後は、ご家族様に電話で報告し、円滑な関係ができています。	入居後もかかりつけ医の診察を希望する方、新規に切り替える方など多岐に渡り、同じ診療科でも医療機関が異なることもある。家族の付き添いを原則とし、家族の都合がつかないときは、職員が付き添っている。通常に通院時には、バイタルチェック表を主治医に届けている。状況の変化により通院する場合には、生活状況を詳細に記載した「医療と介護の情報提供書」を作成し、生い立ち、現病名、ADL情報等を医師に伝えている。通院結果は、看護師から家族に連絡している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、看護師とも医務用ノートを共有し、利用者様の日々の健康チェック、一般状態観察を行っている。訪問看護師とはオンコール体制を取っている。急変時や変化時には、看護師に連絡、相談して指示を仰いでいる。かかりつけ医とも連携を取り、迅速な対応を心がけている。必要に応じて受診し家族への事前連絡も必ず行うように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時には、入院先への情報提供と、入院後は可能な限り面会に出向き、相談員とも話し合い、状況を把握し、退院までにスムーズな対応や体制を備えておけるよう心がけている。また、ご家族様と相談し調整も行っている。普段から利用者様の通院支援を通して、医師と医療面の相談も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の経験を活かし、日々、医療関係者(医師・看護師・薬剤師等)と密接な関わりを持ち、連携を深め、ご家族様には、変化等の報告をこまめに行い、適時、適切な対応に努めている。日々の状況変化等の報告を職員間で確認し合いながら急変時対応に努めている。	利用契約時に医療連携体制指針に基づき、入浴設備の関係で支援が難しい場合や常時医療的支援が必要になった場合には、次の生活の場について検討することを説明し、同意を得ている。看取り支援は、職員体制と施設設備の関係で現在は行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の備えとして、年2回の防災訓練時にAED、応急手当訓練などの訓練を継続して実施し、実践力を付けるように努めている。また、かかりつけ医師、看護師、家族との連携を密にしていくと共に、急変時対応マニュアル等の定期的確認、見直し、更新を行っている。施設内研修では、事例も取り入れ、シミュレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染拡大を受け、今回は、地域防災協力員の協力要請は控えた。春は火災想定、秋は風水害を想定した避難訓練及び夜間緊急通報訓練を実施した。また、花巻市のハザードマップが更新されたことにより、施設内研修を通して水害に対する知識を学べるよう努めている。消防設備、非常用食料、衛生用品等も定期的に点検、準備している。職員は、地区の防災学習会にも参加している。	隣接する同法人のケアハウスと合同で春の火災想定、秋の風水害を想定した訓練を行っている。事業所の駐車場を挟んだ山が市のハザードマップで土砂崩れの危険があるとされたため、土砂崩れの兆候が見られた場合には、隣接のケアハウスの二階に垂直避難することとしている。有事の際の協力体制は、近隣の運営推進会議のメンバーとし、近隣に住む職員とその家族の対応を想定している。	隣接するケアハウスの防災担当者とホームの防災担当者が具体的なシミュレーションに基づく避難体制を確立し、消防署の指導を得ることが望めます。更に、薄暮の時間帯に夜勤体制での避難訓練の実施を検討し、併せて運営推進会議を核とした地域の協力について、同会議で協議することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ利用時、入浴時、食事等における言葉かけへの配慮。利用者、職員間の会話中の言葉遣いについても丁寧な言葉のかけ方を朝のミーティング等を利用し「ほっとメッセージ」に努めている。施設内研修を通して、「尊重」という理解とケアについて学ぶ機会を設けている。	その人の生活歴を尊重し、温かみのある声かけや誘導に留意し、更に利用者自身が決められる声かけについて毎朝のミーティングで確認し合い支援を行っている。入浴後の服装の選択も職員の押し付けにならないよう、自分で選んでもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定がなされるように相手に伝わる言葉、その方に合った表現の仕方を選択し相手に伝え、耳の聞こえが悪い方には、ジェスチャーや口話、筆談等をコミュニケーションの手段とし、状態や希望に沿った支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は、自分の好きな場所での過ごし方をしている。自室でテレビを見ながらコーヒータイムする方、本を読む方、ラジオを聞く方、リビングで過ごされる方もいる。天候を見ながら散歩の予定を入れたり余暇等の内容を相談し、希望に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴の際、着る服をご自分で選んで頂くよう支援している。気候や気温に合わせて職員と一緒に服を選ぶこともある。着衣失行時には、さりげなく言葉をかけ、適切な身だしなみに整えている。2か月に1回の訪問理容では、利用者様やご家族様の意向を伺いながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、テーブル拭き、「頂きます」の挨拶、食後の片づけ等それぞれに役割を持って生活できている。食事前には口腔体操を行い、楽しく食事が摂れるよう支援している。咀嚼や飲み込みが難しい方や、歯科治療中の方には、食形態を変更し提供している。モニタリングを行いながら、適切な時期には普通食に戻すなど、対応している。食材は地産地消を心がけて購入している。また、余暇時間にスーパーの広告を見て、食べたいものを話したり、季節感を感じられるような声掛けを行っている。	献立表は、ケアマネージャーが月単位で作成している。週2回、地域のスーパーに発注して届けてもらっている。利用者は、本人の希望と特性に応じ、茶碗ふきや食材の下ごしらえなどにも参加している。熱いものは熱いままで、冷たいものは冷たいままで、色彩の濃い野菜の副食には上に少し緑のものを載せることを大切にしている。事業所の畑で育てた野菜を食材として活用することもある。行事食も、手作りして季節感のある内容となるよう工夫している。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自歯欠損の方や歯の治療中の方には、一口大の大きさ、刻み食、ミキサー食等で提供している。味付けは薄めとし、食事内容、食事量に配慮している。かかりつけ医からも意見、助言を頂き、食材や量に反映し提供している。1日を通して、こまめに水分補給の促しを行い、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、ご本人様の状態に合わせて一部介助も行っている。義歯洗浄は就寝前に実施している。食前は毎回、口腔体操を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者様の意思表示、排泄パターン、排泄リズム、表情を汲み取ることで、トイレでの排泄回数も増え、パット使用削減に繋げている。また、排泄チェック表の記入を確実にし、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄リズムを把握し、水分補給などの健康管理に役立っている。自立している方は入居者7人中4人。3人は一部介助である。夜間にポータブルを使う利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に基づき便周期を把握し、また、便秘対策として乳酸菌飲料を提供している。便秘予防として、腹部マッサージや運動(歩行・軽体操)に努めている。食事の際、水分を摂れなかった方については、時間をみて個別に水分補給を促している。排便が見られない時には、看護師の指示のもと下剤を追加し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	毎日のバイタル測定値の確認し、ご本人にはその日の体調、気分等を伺いながら柔軟に支援している。入浴に消極的な方には対応を工夫し、コミュニケーションを図りながら支援している。	入浴は、月曜日から金曜日の間の2回とし、本人の希望で多く入る方もいる。入浴を嫌がる利用者には、無理に勧めず曜日をずらすなどして対応している。歩行に不安のある利用者には、シャワーキャリーを使用し安心して入浴ができるように配慮している。入浴は個別支援になるため、職員と利用者のコミュニケーションを深めながら、本人の思いや希望を自然に確認できる場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の室温調整や換気、照明調整、清潔な寝具の提供や生活習慣に合わせて、状況に合わせた休息や安眠ができるよう支援している。また、希望時は湯たんぽ利用や悩みに傾聴し安心して休んで頂けるような支援に努めている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルにまとめ、いつでも閲覧できるように整備している。特に、薬内容に変更があったり追加された時には、薬内容の把握、副作用等の症状の変化にも観察を行い、必要に応じて医師に報告し調整している。服薬は飲み忘れが無いようにダブルチェックに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ(洗濯物たたみ、寝具類交換、テーブル拭き、新聞たたみ、広告のゴミ箱作り、ゴミ捨て等含む)を通して、希望を聞きながら個々に役割を持たせる支援をしている。居室でテレビを見ながらコーヒータイムやラジオを聞きながら読書、職員と散歩等、それぞれ楽しみを持ちながら過ごせるような支援に努めている。レクリエーションでは、回想法を活かした歌集を使用し、歌ったり、話が弾んだり雰囲気大切にしたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課の散歩については、新型コロナウイルス感染拡大とクマやイノシシの出没を受け、外出制限が余儀なくされた時期もあったが、天候の良い日は四季の変化を感じて頂くため、敷地内ではあるが対策として熊鈴を持参し、リフレッシュの機会が保持できている。また、地区行事への参加、お花見ドライブ、ひまわり畑の見学、田んぼアートの見学、紅葉ドライブなど、季節を感じて頂けるよう外出も多く計画し、記念写真を撮り、各利用者様に配布している。ご家族様にも都度、郵送している。	コロナ禍で外出制限があったが、地区行事への参加に加え、お花見ドライブ、ひまわり畑の見学、田んぼアートの見学、紅葉ドライブなど、季節を感じていただけるように外出を多く企画し実施した。日常の散歩コース近くに、クマやイノシシが出現するが、職員の見守りとクマよけの鈴を活用するなどして、日常生活の維持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの所持をせず、日常生活用品や必要物品が不足した時には、ご家族様に連絡し補充購入して頂くか、施設で立て替えて購入することある。金銭管理は職員で行っている。定期的にご家族様にも出納状況を報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りが困難な方が多く、ご本人様の希望時、または、ご家族様や知人等の希望時には、電話の取次ぎの支援を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活動線の環境整備に努めると共に、廊下、食堂兼リビング、トイレ、行事・会議用広場は広く、天窗からは、日差しが入るようになっており、その続きの和室には、炬燵が備わっている。夏には、窓に遮光ネット、冬は、防寒シートを貼るなど、室温変動に配慮している。夜間時には、照明に配慮している。施設内には利用者様と一緒に制作した季節の作品をリビングや廊下に展示している。一日の暮らしがわかるようなスケジュールも貼付している。献立表はいつでも見れるように厨房入口に貼付している。	食堂を兼ねたホールと畳間があり、畳間には、炬燵とテレビがあり利用者は、思い思いの場でゆったりと過ごせる空間が確保されている。エアコンと補助暖房器具としてファンヒーターが設置されており、更に透明なアコーディオンカーテンで防寒対策が講じられており、利用者が快適に暮らせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望を伺い、座席に配慮している。気の合った利用者様の居室で一緒にテレビを見たり、施設の周辺の草取りをしながら交流し、好きな時間に『やりたいこと』ができるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や写真等を持参して頂き、居心地の良い環境で過ごして頂けるよう工夫している。また、草花や行事写真、手作り作品をご自分で居室に飾るなど、ご自身でも工夫して過ごされている。	居室には、洗面台、ベッド、押し入れ、エアコンが設置されている。入居前の思い出の写真や壁掛けなどを飾り、自分の部屋として使っている。テレビや椅子などを持ち込み、ゆったりと自分の時間を確保して過ごせる空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、居室の場所が分かりやすいように表示を行い、声掛けや誘導をしている。特に居室については、目印や名前を入口前に貼る等の工夫をし、ご自身で行き来ができるように工夫している。		